



兵庫県建築士会会報

tsudoi



2026 January No.490

新年のご挨拶

謹んで新春のお慶びを申し上げます。会員の皆さまにおかれましては、穏やかな新春を迎えられたことと存じます。

昨年は、阪神・淡路大震災30年の節目にあたる記念事業をはじめ、法改正に伴う建築士サポート事業（県からの受託）、「ひょうご ぼうさい建築祭 in 姫路」、県と共催した木造業務ビル設計研修など、技術の向上と社会への貢献を目的とした多くの取り組みを、皆さまのご尽力により実施することができました。

特に、日本建築士会連合会など外部との積極的な連携によって実現した事業は、今後の活動の新たなモデルとして、大きな可能性を感じています。

また、公益法人制度の改正への対応に際しましては、皆さまから多大なご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

本年も、会の魅力をさらに高め、地域に根ざした活動を通じて、建築士および建築士会の社会的な信頼の向上に努めてまいります。引き続き、変わらぬご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和八年 元旦 会長 正木 恵子



令和7年 建築士の日 2025 ひょうごぼうさい 建築祭 in 姫路 事業報告

講演会・パネル展示・相談会

令和7年8月31日 開催

参加人数:60人

阪神淡路大震災から30年を契機に、(公社)兵庫県建築士会では、防災・減災について考える機会を設け、ひょうご五国を巡る活動をしていきます。その第一回目を姫路で開催しました。

開催会場：イーグレひめじ B1F

講演「山崎断層と南海トラフ地震」

講師：西影 裕一 氏

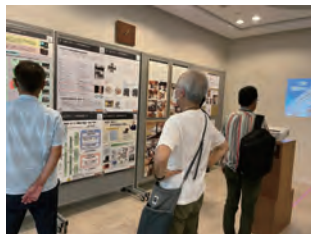
パネル展示：耐震補強事例など

VTR上映：阪神淡路大震災の記憶

相談会：耐震に関する無料相談



講演会 講師 西影 裕一 氏



パネル展示



チラシ

応急危険度判定士 実地模擬訓練

令和7年10月4日 開催

参加人数:12人

「建築士の日」として広く社会に向けて建築士の活動をアピールしていきます。

今年度は、座学だけでなく、被災した建築物について、その後の余震等による倒壊の危険性、建築物の部分の落下・転倒の危険性等二次的被災を防止すべく、『応急危険度判定士』の活動PRを兼ねて、被災建物を想定した、実地模擬訓練を行いました。

座学会場：姫路市立高木総合センター

模擬判定会場：姫路市営高木住宅

訓練講師：原 博元 氏



詳細な報告は、ホームページで公開しています。
左記QRコードからご覧ください。



原 博元 氏



実地訓練様子



チラシ

文・写真：渡邊 一洋（災害対策委員長）

目次	P.1	会長新年のご挨拶 / 令和7年 建築士の日 事業報告
	P.2-3	2025年 第16回 高校生の「建築甲子園」全国大会兵庫予選
	P.4	大阪関西万博・大屋根リング見学会からのいざない！

メール配信と名簿のご案内

「集 tsudoi」誌面に掲載できない情報などを「兵庫県建築士会メールニュース」として配信しています。受信希望の方はホームページからメール配信登録をしてください。またホームページの名簿への掲載を希望される方は会員建築士名簿のページからお手続きください。



第16回「建築甲子園」兵庫予選 選考報告

※ 2校14作品の応募の中より優秀賞4作品を選出

■テーマ「地域の暮らし - 地域に根ざした新しい和室を持つ戸建の住まい」

総評：正木 恵子（兵庫県建築士会会長）

今年度の建築甲子園兵庫予選には、2校から過去最多となる14作品が集まりました。

今年は、3年生によるチーム作品だけでなく、1年生の個人作品もあり、「地域に根ざした新しい和室」というテーマへの多様な視点と創意工夫が光る、個性豊かな作品が揃いました。これまでは全国大会への進出は1作品のみでしたが、今年度から選出枠が応募数に応じて決まる新たな制度となり、厳正な審査の結果、特に優秀と認められた4作品が選ばれました。皆さんの熱意ある挑戦に心から敬意を表するとともに、ご指導いただきました先生方に深く感謝申し上げます。

■審査委員会

審査委員長
審査委員

正木 恵子（会長）

西嶋 宣久（副会長）

岸野 裕児（まちづくり委員長）

鷺野 仁（青年副委員長）

橋本 育子（副会長）

尾瀬 くみ（研修副委員長）

有國 智都子（女性委員会）

詳細は、ホームページで
公開しています。
右記QRコードから
ご覧ください。



優秀賞

国立明石工業高等専門学校

青木 舜

康 宗一郎

小山 晃正

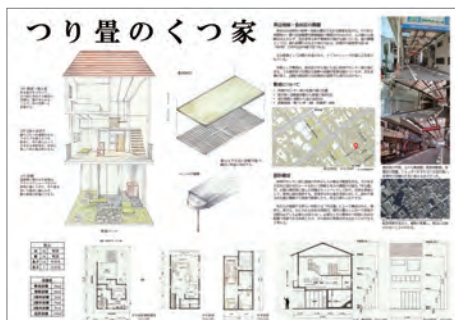
三浦 庵

村山 晴斗

つり畳のくつ家

阪神・淡路大震災から30年が経ち、長田区の西神戸センター街の現状と課題に向き合った作品である。地域のくらし・地域に根ざした新しい和室を持つ戸建の住まいをテーマにした今回の要領の中で、西神戸センター街に面した長田区に根付いた産業であるケミカルシューズ店舗付住宅の提案で、地域の課題である人口減少、高齢化、空き家増加、緑地の減少を和室「吊る畳」によってフレキシブルに地域や内外を繋いでいくアイデアや表現は評価できる。地場産業とコミュニティスペースなど、どのように周囲環境に影響させるか期待できる作品である。

作品講評：岸野 裕児（まちづくり委員長）



優秀賞

国立明石工業高等専門学校

足立 茉優

瀧山 昂一

エニシ

縁を紡ぐ - ものどもの、人と人、人とものをツナグ -

玉川 風太郎

海との繋がりが深い坂越の生活を考えに入れた提案である「縁を繋ぐ」というテーマに沿って素晴らしいと思う。設計案と共にとても練られた感を感じる。和室をブロックとして考えた所も面白く遊べる空間として使える。ただ、2階メインが住まいである家族の家に和室がないのが少し寂しい。後、斜めに寸法が入っている為、実際の面積が解りにくく面積表も正しいのか検討にくい。

作品講評：有國 智都子（女性委員会）



優秀賞

国立明石工業高等専門学校

魚住 真之介

久保 昂太郎

めく

かな

回る里、適う家

西岡 颯大

西村 凜太郎

建築地である淡路島の状況を把握し高齢化・空家・環境等の課題を解決していくための計画がなされ、家族だけでなく地域との共働を促す仕組みが提案されている。住宅においては日本古来の間取りを思わせる土間と和室を中心にした多世代にとって優しい動線が確保され、ダイアグラムによって詳細な仕組みが表わされている。少し気になるのは、家族構成を考えるとプライバシーへの配慮である。また季節による温熱環境への対策が懸念される。図面については方向・位置が表わされるとなお見やすくなると思う。

作品講評：橋本 育子（副会長）



優秀賞

国立明石工業高等専門学校

酒井 健晴

深山 穂乃嘉

ろじ

とき

あち

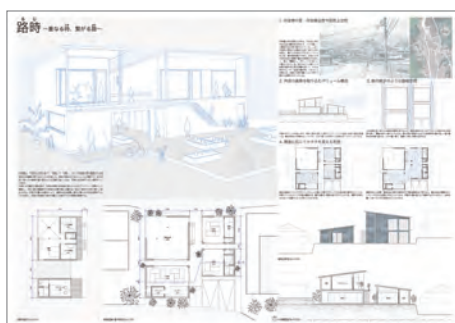
路時 ～重なる時、繋がる路～

宮崎 彩寧

安木 大晃

丹波篠山市今田町立杭の歴史ある町並みの中で丹波焼の窯元が残り陶芸文化と深く関わりのある地域で現状と課題に向き合った作品である。地域のくらしをよく観察しまち全体が「生活の展示場」になっているところに着目しているところが面白い。地域に根ざした産業と地域の特色である歴史的町並みを路地で繋ぐ場所として新しい和室を持つ戸建の住まいを表現できている。可動式の畳を設けることで、家族の日常生活と地域行事の非日常対応する和室が路地を通じて「路時」となり地域と暮らしを結ぶことで活性する姿が浮かぶ素晴らしい提案である。

作品講評：岸野 裕児（まちづくり委員長）



奨励賞 国立明石工業高等専門学校 西口 瑠空

緑側のない線の和室 作品講評：橋本 育子（副会長）

山上からの願望を楽しめる緑側風の和室は家族や地域の来客とのコミュニケーションが図れる場所となっており縁甲板でなく畳を使うことで多様性が感じられる。畳のメンテナンスやプライバシーも配慮された計画である。和室の柔らかな雰囲気と居住スペースの斬新な外観がどのように融合されるのか、また全体的なバランスとして建物周辺にもう少し余裕があればなお良いと思う。文字の大きさのばらつきが気になる。

奨励賞 国立明石工業高等専門学校 阿部 夏英 柴原 黎 中村 百恵 宮本 彩加

波の庵 作品講評：尾瀬 くみ（研修副委員長）

須磨海岸沿いの観光客向け別荘として気持ちよさそうな建物である。吹抜けのある土間で“可動畳”を移動させて思い思いに過ごせたり、畳敷きの出窓でくつろげるのも良い。“可動畳”を全て組み合わせると4畳程度の広さになるアイデアも面白い。渡り廊下が太鼓橋になっているのは、設定である外国人観光客への日本ぼさの提供であろうか。テーマである、和「室」への新しい提案や説明があれば尚良かった。

奨励賞 国立明石工業高等専門学校 岡村 勇広 奥田 福実花 鴨 咲希 北濱 一仁

家島でチルしよう 作品講評：鷺野 仁（青年副委員長）

コンパクトな計画ながら、家族構成まで含めたコンセプトが明確であり趣旨の表現が上手くなされている。四角の和室にこだわらずRを効果的に使った設計が素晴らしく、背もたれに畳を使う発想も面白い。敷地設定が明確であるが故に、海と山との関係性や立地に対しての和室がもつ役割、ここで暮らした楽しさ等をもう少ししっかりと伝えられればなお良かった。本体構造が不明確な点と面積表が㎡でなくmm表記で読みづらい点が惜しい。

奨励賞 国立明石工業高等専門学校 内山 咲穂 神代 愛里 小林 みな 町田 凜 山本 笑溜

和室から広がる家族の暮らし 作品講評：尾瀬 くみ（研修副委員長）

土間の中心に畳室を配置した住宅。この畳の室で家族の様々な行為がなされる事は若い世代にとって新しいのだと作品を見て気付いた。キッチン以外は床が上っており畳の橋で行き来するのなら、土間である理由は何か？もう少しアレンジすれば地域にも繋がる面白い建物になっていた予感がする。吹抜けに架かる2階床ほか構造的な疑問はあるものの、大きく跳ね出した軒に映る水面など、気持ちの良い暮らしが想像された。

奨励賞 兵庫県立東播工業高等学校 嶋坂 光牙

地域と交流する家 作品講評：鷺野 仁（青年副委員長）

子供から高齢者までの世代間交流という現代のニーズをしっかりと捉えた作品である。中央の庭を和室で囲う配置でコミュニティの形成が図りやすい計画は評価できるが、斜めの平面形状を活かし、もっと大胆に外と内をつなげた形を見てみたい。断面図で高さ関係の把握ができる点は素晴らしいが具体的な寸法の記入があればなお良かった。また、計画地として航空写真の添付がなされているが具体的な場所、敷地形状を示して欲しいと思う。

奨励賞 兵庫県立東播工業高等学校 岩元 琉聖

人々を繋ぐ安らぎの和室 作品講評：有國 智都子（女性委員会）

多方向から見られる和室の提案はとても面白いと思う。家の形もそれに合わせて考えている様だが、用途がよく解からない所がとても残念だ。どのような用途に使うのか、を念頭に入れ「建築する建物」として成立出来る様に考えられたらもっと良くなると思う。今回は和室との繋がりを考えるとしているので畳がちょっと解りにくかった。

奨励賞 兵庫県立東播工業高等学校 綿谷 航汰

和風カフェのある小さな家 作品講評：尾瀬 くみ（研修副委員長）

遊休農地にカフェと住宅を平屋にまとめた案である。大きく架かる切り妻屋根が伸びやかで、大きな窓が一つある妻面のファサードはダイナミックで良い。この面の立面図は付けるべきであろう。窓に向かって1人席が並ぶが、設定である近所のお年寄りが一人で静かに過ごしたいのか逆に人と繋がりたいのかによって、レイアウトは検討の余地がある。あえて狙っているなら別だがコンセプトは見ると人が読みやすい事を望む。今後に期待！

奨励賞 兵庫県立東播工業高等学校 名田 真

三色団子ハウス 作品講評：岸野 裕児（まちづくり委員長）

加古郡稲美町で店舗付き住宅の作品である。地域のくらしと、どのように向き合い、なぜこの場所で団子屋なのか説明が無いのが残念である。三色団子ハウスと言う分かりやすい表現とファサードは面白い。団子屋さんを通じ地域に根差していくことを期待する。新しい和室を持つ戸建の住まいをテーマにした今回の要領の中で、3階の畳をモダンに和菓子のモチーフに合った色に工夫されているようだが、表現が分かりにくく残念である。

奨励賞 兵庫県立東播工業高等学校 小池 楓真

和室で交流できる店舗兼用住宅 作品講評：鷺野 仁（青年副委員長）

地域に開かれた店舗兼用住宅というコンセプトであれば、具体的な敷地条件（県内の市町村を設定する等）や人々の暮らし方などを調査し、取り入れることで作品に説得力が生まれるのではないだろうか。気軽に立ち寄れる和菓子店らしい外観は良いが外部との空間のつなぎ方に工夫が欲しい。大空間をどのように成立させるのかといった構造的な観点や各図面に寸法線を入れる等の基本的な図面表現が整えばさらに良い提案になると思われる。

奨励賞 兵庫県立東播工業高等学校 小松 遼人

親しみを守る家 作品講評：有國 智都子（女性委員会）

家の中央に和室、家族の中心を和室にしたいというコンセプトは理解出来る。内観パースの人物も動きがあって解りやすく提案としては素晴らしいと思う。地域に根差している等の趣旨内容としては、やや弱いかなと思うので、敷地条件、地域の暮らし等、設計条件も細かく考えてほしい。

「多様でありながら、ひとつ」

建築士会での研修が万博にて開催され大屋根リングについての解説もあるということで、参加させていただきました。

初めての参加の方々も多く、スマホのみで予約、決済する『デジタル万博』の取組が、デジタルデバイドを実現していました。次開催するなら『デジタル格差解消万博』が逆に新しいかもしれません。

と、つつい批判してしまう万博ですが、言うのは簡単、あれだけの施設や建築を

短期間で実現するのは想像を絶する建築士や関係者の努力の結晶だと思います。

大屋根リングは、伝統的な「貫」接合と現代工法を組み合わせた世界最大級の木造建築物で、『多様でありながら、ひとつ』というコンセプトを体感することができました。施工会社による接合部が違い、竹中工務店はクサビ型という解説も印象的でした。



集合写真



大屋根リング設計・施工説明：黒川 宗範 氏
(株式会社 大林組設計本部 大阪建築設計第一部所属)

■ 行程

加古川駅北⇒万博会場西ゲート⇒予約パビリオン見学＋自由散策
⇒大屋根リング説明⇒予約パビリオン見学＋自由散策
⇒万博会場西ゲート⇒加古川駅北

■ 開催概要

日 程	: 2025 年 8 月 8 日 (金曜日)
行 先	: 大阪・関西万博会場 (大阪市此花区夢洲)
対象者	: 建築士会会員、建築に興味のある県民
参加人数	: 25 名 (会員 22 名、一般 3 名)
会 費	: 会員：10,000 円 非会員：13,000 円
協 力	: 大阪府建築士会

パビリオンでは、一時的建築ならではの木造雨ざらし建築やテント膜材建築の中で大画面デジタル画像を堪能する体験や、その国の文化や未来をリアルに体感するものがありました。パビリオンのコンテストでは、後者の体感を重視して、工夫したものが多く受賞していました。やはり、どこまでいっても、人間も建築も、デジタルの疑似体験ではなく、本物の素材や自然の匂い、その地域の風土に基づいた美しさを体感できるものが心を動かすのだと改めて感じた研修となりました。

企画運営頂いた皆様に、心より感謝申し上げます。

文・写真：前川 桂恵三 (加古川支部)